

産総研化学物質
リスクセンター長

中西準子さんに聞く

PCBと向き合う

<下>



「事故が起きた場合の対応を常に考えて」と話す中西さん

なかにし・じゅんこ
1938年中国・大連市生まれ。61年横浜国大工業化学科卒、67年東大大学院修了。東大環境安全研究センター教授、横浜国大大学院環境情報研究院教授などを経て2001年から現職。著書に「水の環境戦略」「環境リスク学 不安の海の羅針盤」など。

一年後に空欄で始まるポリ塩化ビフェニール(PCB)廃棄物処理事業。空欄市と道は、安全な処理を前提に受け入れたが、日本環境安全事業(JESCO)の他事業所では事故も発生した。「本心に安心なのか」と不安の声もある。市民はどう考え、空欄で処理するリスクにどう向き合うべきか。環境リスク論の第一人者である、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター(茨城県つくば市)の中西準子センター長に聞いた。(聞き手・関口裕士)

リスクは

絶対安全あり得ぬ 事故への備え必要

——来年十月から空欄場で一九八〇年代後半にの使ったPCBは自分たちでPCB廃棄物の処理が行ったように、今残るPCBも焼却処理すべきだ。PCBの処理は非常に重要で、PCBには人間の体内に何十年も残る蓄積性があり、生物濃縮も進む。製造中止後も三十年以上処理できず、行方不明になったり不法投棄されたものもある。事故がなくても環境中に漏れているんです。国全体のリスクとして考えなければいけません」

「事故が起きた場合の対応を常に考えて」と話す中西さん。空欄市と道は、安全な処理を前提に受け入れたが、日本環境安全事業(JESCO)の他事業所では事故も発生した。「本心に安心なのか」と不安の声もある。市民はどう考え、空欄で処理するリスクにどう向き合うべきか。環境リスク論の第一人者である、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター(茨城県つくば市)の中西準子センター長に聞いた。(聞き手・関口裕士)

「事故が起きた場合の対応を常に考えて」と話す中西さん。空欄市と道は、安全な処理を前提に受け入れたが、日本環境安全事業(JESCO)の他事業所では事故も発生した。「本心に安心なのか」と不安の声もある。市民はどう考え、空欄で処理するリスクにどう向き合うべきか。環境リスク論の第一人者である、産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター(茨城県つくば市)の中西準子センター長に聞いた。(聞き手・関口裕士)

事業者の現状を伝えた「と理解を示した。同支局によると、原油価格の高騰で、国内海運業界は本年度の費用負担額が二年前と比べ年間約60%増、トラック業界もほぼ同様の負担増となる見込み。」